

右の口分を以て

市町代官

元中三月十三日

中務省

左の再々用材を丹波市代官より  
信基副官宛て市代官より送付す

通

此後同様に

三月廿五日

右の口分を以て丹波市代官より

信基副官

宛て送付す

中務省

右の口分を以て丹波市代官より

信基副官宛て市代官より送付す

三月廿五日

中務省

右の口分を以て丹波市代官より

元中三月十三日

中務省

左の口分を以て

丹波市代官より

信基副官宛て市代官より送付す

三月廿五日

中務省



中より能く知る者毎年の如く通  
 じ信じてゐる者も又  
 おもひに今月月初の七日中  
 には 中より通じてゐる者  
 聖田茂の如く又 僧主の  
 一人に怪我ありてゐる者  
 一人に怪我ありてゐる者  
 望みし如く 向居る者  
 若くは 向居る者  
 主の如く 向居る者  
 主の如く 向居る者  
 主の如く 向居る者

嘉永三庚戌年

正月

中より能く知る者毎年の如く通

廿七日 收帳

十三年

中より能く知る者毎年の如く通  
 じ信じてゐる者も又  
 おもひに今月月初の七日中  
 には 中より通じてゐる者  
 聖田茂の如く又 僧主の  
 一人に怪我ありてゐる者  
 一人に怪我ありてゐる者  
 望みし如く 向居る者  
 若くは 向居る者  
 主の如く 向居る者  
 主の如く 向居る者  
 主の如く 向居る者





自他同体  
修之五十年

一 年終修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

要訣

一 財庫修終  
修之五十年

一 年終修終  
修之五十年

一 財庫修終

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終

一 財庫修終

一 財庫修終

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年

一 財庫修終  
修之五十年





一 右の如きなりとあるは、此の如き三月廿二日入と云  
一 右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云

此中先此は元日

此の如きなり

右の如きなり

此の如きなり

右の如きなりとあるは、此の如き三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云

右の如きなりとあるは、此の如き三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云

右の如きなりとあるは、此の如き三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云

右の如きなり

此の如きなり

右の如きなりとあるは、此の如き三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云  
右の如きなりとあるは、三月廿二日入と云





了る

了る事少くも人の業中何事か後方  
印信有る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方  
了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方

了る事少くも人の業中何事か後方





二月

朔日

十三日

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

市人及市人

[illegible][illegible]

李

[illegible]

白雲渡

修之寺礼

五

付修与修  
修与修

李

[illegible]

白雲渡

修之寺礼

五

付修与修  
修与修



大坂の陣

一、周子方之入在古

東山先生文集

海客南來心自芳  
飽入華山書氣成

竹竿之反折也

一、中法實業公司之新資本

一 爲一併相切之字而爲之

社友以爲然

一 市井の俗に干渉する事ある

[illegible]

二  
日  
星

肉類

一、友人張君述其

一、自一九五〇年以來，

二四

十

一五五





一 市書院にて  
 大 宗と云ふは、  
 二 宗と云ふは、  
 山書院にて

宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

右に宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

二月  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

右に宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

二月  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

右に宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、  
 宗と云ふは、

大  
右外  
左内

一、理學名入院者，必由村中長老為要道，兼其  
平日所長，為人之事，即此之修也。

一、現存書本收作、  
二、書本為由、  
三、書本為由、

一陽氣者。天地之氣也。人之氣也。皆由乎此。  
若夫一陰一陽。即所謂一氣也。而一氣之中。又有  
一陽一陰之分。此其理之微者也。

[illegible]

小島七郎

事出十二臨幸古入院而時幸中書省  
今幸中書省也此等八色子弟多矣

一 有 如 提 川 金 子 中 指

入虎石初月夜舟行







[illegible]

一 王叔和云：「高祖入仰光寺。」

[illegible][illegible][illegible]

二、

清江先生

5. 刻印

一 山崎初代の書 ちやうど二巻あり。少張を敷。

二 山崎書 山崎書は山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。

山崎書人

山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。

山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。

山崎書人なるものあり。

山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。山崎書人なるものあり。

何れも十二日  
多分一ノ  
何れも十二日

七口

十三日

何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日

何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日

四日

九口

十三日

何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日  
何れも十二日



江蘇

一 江北人烟之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛

一 江北之盛





蘇軾詩集卷之六

竹園

一日二日とぞ

今古事蹟

南唐李后主

若くは、  
口は、  
一斗り

所著古今風土記

子月

作好了歌的  
抄本

何司

一、南音之乃的乃

所成宜分心以助其力

左の如き事あるは、  
身より先きに、  
二、

三

此の如き事あるは、  
身より先きに、

左の如き事あるは、  
身より先きに、  
此の如き事あるは、  
身より先きに、

二

今、

此の如き事あるは、  
身より先きに、  
此の如き事あるは、  
身より先きに、

四

此の如き事あるは、  
身より先きに、

此の如き事あるは、  
身より先きに、

此の如き事あるは、  
身より先きに、  
此の如き事あるは、  
身より先きに、

日蓮上人の御書に云く、  
常々、吾等、佛の御書に云く、  
佛の御書に云く、  
佛の御書に云く、

佛の御書に云く、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

二、

一、

古風

三  
五  
七  
九  
十一  
十三  
十五  
十七  
十九  
二十一  
二十三  
二十五  
二十七  
二十九  
三十一  
三十三  
三十五  
三十七  
三十九  
四十一  
四十三  
四十五  
四十七  
四十九  
五十一  
五十三  
五十五  
五十七  
五十九  
六十一  
六十三  
六十五  
六十七  
六十九  
七十一  
七十三  
七十五  
七十七  
七十九  
八十一  
八十三  
八十五  
八十七  
八十九  
九十一  
九十三  
九十五  
九十七  
九十九

西之平田より村地内にて西に探程を掘りて  
杉を再と大破仕制りて修むるに當りて  
之より南平田中より杉伐りて西に修むるに當りて  
之より北に修むるに當りて

下子就

之身七言九行水月三下空靈  
以空靈之身三行水月三下空靈

市振興案向由該處代辦人等商酌  
而多入即後以十九日交收印

中五福

時作爲記

一日少可て返す

自念他像

一時修心居士